

報告

ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2014

石橋 あゆみ

1. 息子とヨッテク

私の息子(7歳)は小学校の個別支援学級に通っています。もともと衝動的な行動により外に飛び出す、扉を何度も開閉する等、行動面に特徴のある子どもでした。息子は4歳の時から療育センターの知的通園施設に通っており、その時にヨコハマ・ヒューマン&テクノランド(愛称:ヨッテク)の存在を知りました。療育プログラムのひとつとして、クラス全員でヨッテクに参加したこともあり、小学生になった今でも家族みんなで生活のヒントを探しに参加しています。

2. ヨッテク 2014 の概要

「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2014」の開催日時は2014年7月11日(金)、12日(土)。場所はパシフィコ横浜展示ホールDでした。今回のテーマは「暮らし」。参加者は2日間で約1万5千人だったそうです。

3. テーマは「暮らし」

息子が5歳の時に、自宅を新築することになり、息子の安全対策と家族の暮らしやすさを考えて、療育センターや横浜市総合リハビリテーションセンターに新築時に配慮することを相談したことがありました。そのこともあり「暮らし」というテーマは開催前からとてもワクワクしていました。

会場はどのブースもとても賑わっている印象を受けました。片麻痺の方でも使いやすいキッチンや足腰の弱った高齢の方が使うと便利な昇降機など、リハビリテーションセンターのスタッフがメーカーと一緒にたくさんのブースを企画している印象を受けました。

その数あるブースの中で私がもっとも興味を持った企画は、「テクくんの家、精神発達系のお子さんのモデルルーム」です。

そのモデルルームは2つのエリアに分かれており、片方のエリアではダイニングやキッチンの展示を中心とした内容になっていました(図1)。食事中テレビが気になる子どもに対してどのように対応すればよいかなど、療育センターのスタッフが実演形式でパネルなどを使いながらわかりやすく説明していました。また、もう一方のエリアでは、住宅改造の写真が壁面いっぱいに掲示してあり、玄関や窓のカギのサンプルが机の上にたくさん展示してありました。住宅改造というと高齢者を対象としたイメージがあったのですが、こんなにも発達障害のある子どもの家の改造をしていることにまずびっくりしました。さらに、スケジュールボードという発達障害向けの支援ツールの製作体験ができる場所(図2)があるなど、盛りだくさんで内容の濃い充実したブースだと感じました。スタッフはリハビリテーションセンターや療育センターで働く心理士や保育士、建築士等が対応していることもあり、本当に暮らしに役立つ展示会だと実感しました。



図1 食卓の様子(実演)



図2 スケジュールボード体験

4. おわりに

今回のヨッテクは、2015年7月24日(金)、25日(土)です。もちろんもうその日のスケジュールはあけています!

横浜市在住